

発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3-6
☎0959(72)3957
●ホームページ●
<http://www15.ocn.ne.jp/~mikokoro/>

福江小教区創設

百周年まで180日

九月一四日午後七時、信徒会館で定例広報委員会が開催された席で、来年(二〇一四年)四月二十九日、高見三明大司教を迎え、福江小教区創設百周年記念ミサと司祭館の祝別式が近づいているのに、福江教会の信者は、信仰年の行事とか、長崎教区と下五島地区主催の様々な諸行事に追われ、近い準備が手薄になつていくのが現状である。そこで、信徒を小教区創設百周年に目覚めさせるのにとどいたらよいか、福江小教区誌「こころ」に記事を寄せてくださると依頼された。

一、福江教会の恩人アルベルト・ペルー師と歴代主任司祭の信仰に学ぶ百周年ですから、当然、これまでの福江教会の歴史はどのような

周年の近い準備として下されば嬉しい限りです。
二、希望と喜びをもたらす信仰の再発見

福江小教区を長崎教区が目指している参加し、交わり、宣教する共同体とするためには、長崎教区

が二〇一一年に実施したアンケートと分かち合いによって、司祭の高齢化と司祭召命の減少、小教区再編成、信徒の教会離れ、子供の信仰教育など取り組むべき多くの課題が山積していることに気づきました。これらの課題のうち優先すべき課題は、希望と喜びをもたらす信仰を再発見することではないかと思えます。

神は必要としない世俗化が進展している現代社会で、信仰を再発見し、生きた信仰を持つには、パリ外国宣教会宣教師時代から培われた朝夕の祈りの実践とロザリオ信心の実践、主日ミサと年の黙想会への参加を取り戻すことがとても肝要である。

信仰は、主イエスのもとにとどまり、主イエスとともに生きようとする決断です。百周年を迎える機会に、「信仰の創始者また完成者」であるイエス・キリストに目を注がなければなりません。人のこころ

のあらゆる不安とあこがれは、このかたのうちに満たされるからです。

「信仰年」自発教令より

イエスキリストは「二人または三人が私の名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)と言われました。さらにキリストは感謝のミサを中心とした秘跡の中に現存し、働き、生きるために必要な力と恵みを与えてくださいます。多忙な毎日かもしれませんが、朝な夕な熱心に祈り、熱心に主日ミサに与ることを習慣づけることで、かつての生きた信仰を取り戻し、活力ある福江教会信仰共同体にしましょう。

一 福江小教区100周年

記念行事について

来年の4月に小教区100周年を迎えるにあたり、下口神父様、浦議長等を中心に100周年記念行事実行委員会が組織され一回目の会合が開かれた。

〈内容〉

平成26年4月29日に記念ミサ

午後より祝賀会

記念ミサの前に司祭館の祝別式を行う

詳細については今後実行委員会にて検討し、決定しだい広報誌等で説明します。

召命フェスティバルに参加して

ンがあり、子供たちは頭と

8月19日、長崎大司教区の各小教区から200名近い子供たちが集まり、召命フェスティバルが行われました。

福江教会からも侍者の子供たちが4名参加させていただきました。今年、下五島地区の子供たちは合同参加という形をとったので、他の教会の子供たちとも寝食を共にし、交流を深めることができました。

フェスティバルでは、「召命祈願」の意向で御ミサが捧げられ、雲仙地獄への巡礼や司祭団と修道者による聖歌や劇、バンドの発表がありました。また、午後からはレクレーション



ンがあり、子供たちは頭と体を使い、汗を流し、楽しい時間を過ごしました。二年に一度行われるこの集いですが、子供たちが神様の呼びかけに喜んで応え、教会に近づく良ききっかけになればといつも願っています。今後も、神様からの召命のため、子供たちへの働きかけを多くの人と協力し合っ

て、祈りのうちに続けていきたいと思えます。

エスナック交流会

9月22日(日)二番ミサ後に信徒会館でエスナック交流会が行われました。エスナック代表のシスター藤田文子さんと支援者、エスナックに関わりの深いバングラデシュから3名の若い司祭を迎えて、バングラデシュやインド等で作られている紅茶や工芸品、特産物等の販売。また、現地の状況やエスナックについての説明、3人の司祭のエスナックについての関わりや仕事などについて説明と感謝の言葉が述べられた。

エスナックとは、愛すること、愛を知る喜びを！
Educational Sponsorship of Needy Asian & African Children

★初聖体感想★

7月14日に行われた初聖体式後の感想です。

★1年★

○マテオ中尾誠一：「パンのイエスさまはおいしかったです。ありがとうございました。」

○ヨハネ永田偉楓：「パンのあじがなかった。」

○ヨゼフ中田義人：「あじがなかったけど、うれしかったです。」

ありがとうございました。」

○ヨゼフ西津陽向：「きょうどうきがをいうときがきんちようしたけど、ちゃんといえてよかったです。」

○カタリナ田端真鈴：「おいしかったです。またたべたいです。」

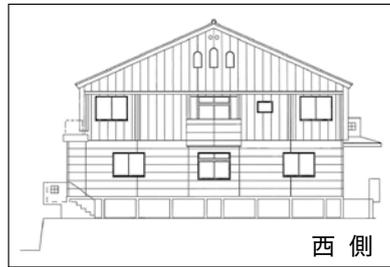
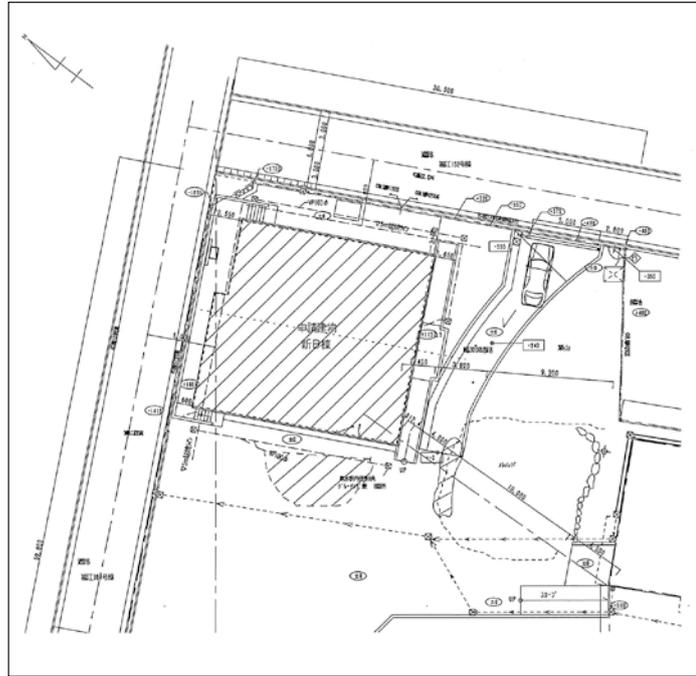
★2年★
○マリア青山采唯末：「パンのイエスさまはおいしかったです。はつせいたいしきはたのしかったです。」



インドやバングラデシュを訪問したシスター藤田文子さんが、その国の最も有効かつ必要な援助は子供の教育だと思ひ設立しました。国から虐げられ、搾取されているバングラデシュ、インド、アフリカ等の山岳民族、スラム街などで極貧の生活をしている家庭の、勉強がしたい子供達のために、愛をこめて里親として援助することを目的としています。里子の殆どの両親は読み書きができません。

エスナックについて興味のある方は、エスナック教育里親グループ
〒399-10214 長野県諏訪郡富士見町落合富里9984-1412
電話 0266-162-2322
FAX 0266-162-2334
インターネットでもご覧出来ます。

新司祭館平面図



【司祭館が着々と進行中】

教会に來られてゐる方はお気づきかと思ひますが、現在取り壊された司祭館跡地周辺に防護壁が立て、そこにカラフルな絵が描かれています。これは、シスター達が書いた物だと聞いた時には驚きました。

防護壁が撤去されるまでの短い間しか見ることが出来ないものなので、信者の皆さん足を止めて見てみてはいかがでしょうか。



福祉委員会からのお知らせとお願い

福祉委員会では御ミサに与りたいけれど、車が無いので行けないと諦めていた方のために、少しでもお役に立てればと、7月から毎月1回第3日曜日の2番ミサに合わせて送迎のボランティアを始めました。今までで平均4名の方が利用されています。送迎のみで、御ミサの付き添いはしていませんので、御ミサ中はご自身で行動出来る方に限っています。送迎を希望される方は、聖堂後方にアンケート用紙を置いていただけますので、必要事項を記入してハウスオブジョイの募金箱に入れて頂きますと申し込み出来ます。また、送迎をスムーズに行うために車を出して下さるボランティアの



送迎ボランティアを利用している方々と一緒に

方を募集しています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。送迎の他に福祉委員会では、ハウスオブジョイへの募金活動も引き続き行っています。合わせてご協力をよろしくお願い致します。

野濱神父様の 霊名のお祝い



10月13日の二番ミサ後に聖アシジのフランシスコ野濱神父様の霊名のお祝いが行われた。

信徒からの霊的花束や記念品の贈呈があり、評議会より「いつも優しく穏やかな神父様。これからも私たち信徒、子どもたちをよろしくお祝いします。」御祝いの言葉が贈られました。

神父様は「わざわざすみません。」と申し訳なさそうにしながらも、「これからもよろしくお祝いします。」と笑顔でお礼を述べられた。

敬老の日ミサ

9月15日の二番ミサは敬老の日ミサとして執り行われた。

ミサの説教で下口神父様より、老後においてもキリスト信者として祈りを大切にし、日々を元気に過ごして頂きたい旨のお話がなされた。

ミサの最後に、今年金婚式を迎えた鍋内清一さん・フイコさん夫妻に下口神父様よりお祝いの言葉と記念品が贈られた。

例年行われていたミサ後の敬老会は、司祭館建設の影響で会場が確保できないため今年は中止となった。



金婚式のお祝いを受け取る鍋内フイコさん。ご主人の清一さんは病氣療養中でした。

皆様にお願いです!

日曜日のミサ後、特に二番ミサの終わる頃の教会前の道路の様子ですが、左右の道路に、駐車して人を待つ車が目立つように思います。

教会から出てくる車の視界を悪くし、通行する車が通れないようになることが多いように思います。

そして、教会から道路を渡る人もいて、大変危険な状態になっています。まだ、事故は起きていませんが、いつ起きてもおかしくない状態になっていると思います。

事故が起きる前に、皆様の協力ですムーズな出入りが出来るようにしたいと思えますので、郵便局から佐々木歯科までの道路での、人の乗り降り、人を待つための路上駐車をしないようにご協力下さい。よろしく願いいたします。



今後の行事

- 10月27日(日) 午後1時〜 牢屋の窄殉教祭
- 11月2日(土) 午後2時〜 死者の月にあたり墓地清掃 清掃後、御ミサ
- ※雨天時は延期
- 11月10日(日) 信仰年記念講演会
〜古巣神父様〜
- 11月24日(日) 信仰年閉幕ミサ

《香典返し》御礼

- 山下博美 様
 - 故マリアマルガリタ山下スエ様
 - 白濱昭夫 様
 - 故マリア 白濱キサヨ 様
 - 鍋内絹代 様
 - 故ミカエル 鍋内末永 様
 - 原塚豊 様
 - 故ペトロ 原塚敏夫 様
 - 赤松モヨ 様
 - 故ヨハネ 赤松藤男 様
- 右記の方々から香典返しに代え、ご芳志を賜りました。
お礼をご報告申し上げますと共に、故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。

編集後記

厳しかった暑さもようやく去り、ちよつと短くなるかもしれませんが、すがすがしい秋を楽しんでいるところだと思います。

今年もまた、異常気象なのか全国的に自然災害が発生して、甚大な被害が起きております。竜巻、豪雨、また台風の通過など生命をおびやかす自然現象は五島も例外ではないと思います。日頃から防災の対策について心構えは必要であると痛感しているところです。

さて、今回のこころは7月に発行して以来であり、初号から数えて191号となります。広報委員会も少ない人数で活動しているため、発行間隔が開きつつあるのが現状です。なかなか入会を希望する人もなく、委員会の活動の見直しも考えているところでありましたが、ようやく新たな仲間が加わっていただくようになりました。広報誌は現在の小教区の活動等を後世にも残すものと考えており、数多くの活動等を掲載したい、写真等を残していきたいと思っております。

広報委員 新メンバー



本山孝雄さん